



中部電力

拡張現実感（AR）を用いた設備保守支援技術

設備情報を「見える化」します

背景・目的

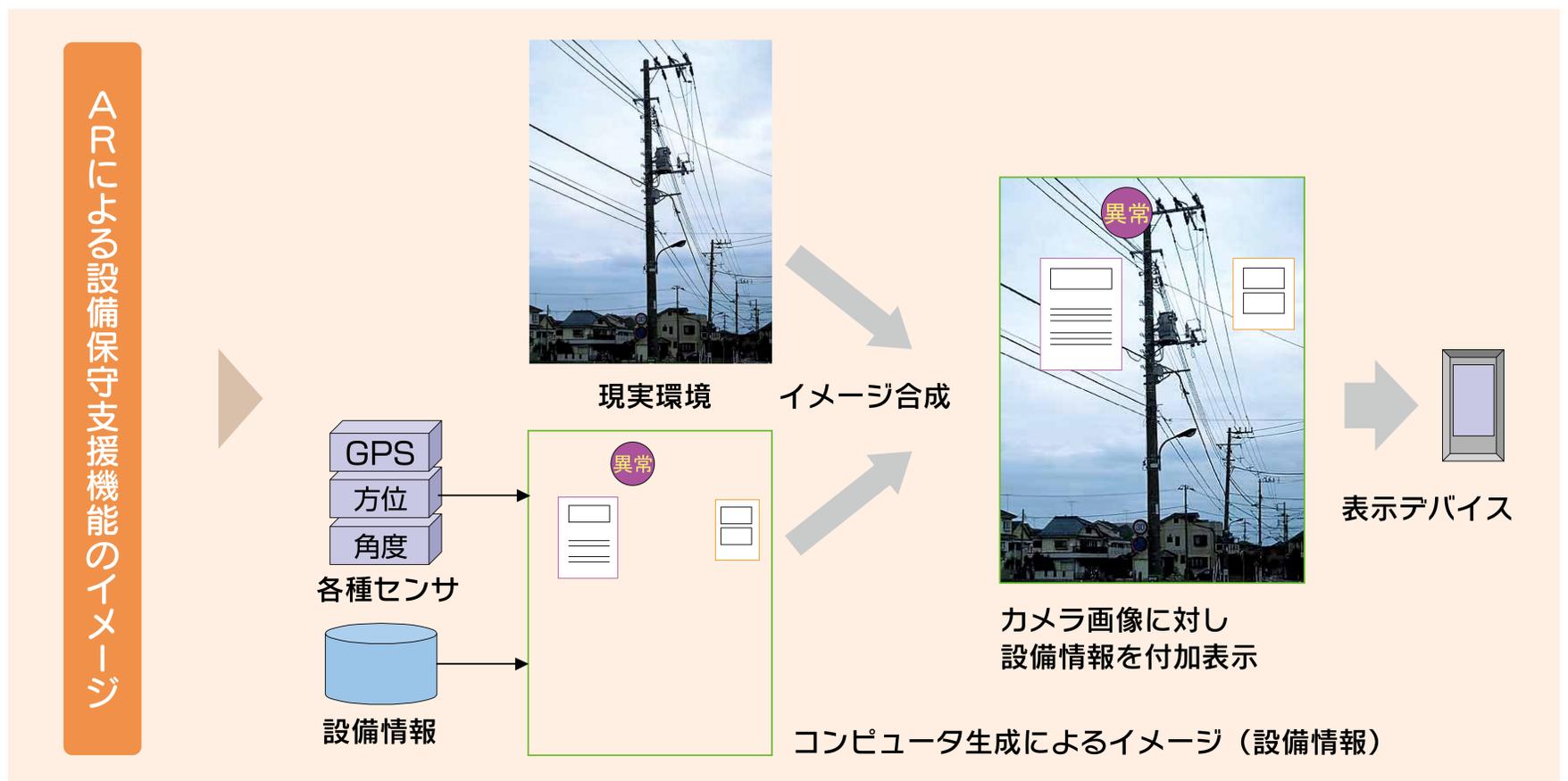
- 拡張現実感（Augmented Reality: AR）とは、現実風景にコンピュータで生成した「付加的な情報」を合成することであり、人間の知覚能力の拡張であると言えます。電力分野においても、設備の状態把握や関連情報の検索について支援機能が検討されており、情報可視化を実現するARは設備の巡視点検等に有効な技術です。

特長

- スマートフォンやタブレットを用いた可搬性の高い方式
- 機器へのマーカー貼付により設備情報を表示
- GPS等のセンサー情報により電柱ごとの設備情報を表示

用途

- 電力設備の巡視点検
- 現場での設備関連情報の把握
- 機器の操作手順等の確認



基礎検討段階の次世代技術ですが、設備保守の高度化に向けた研究開発を進めていきます。

開発者の
ひとこと